

1 漢字・故事成語に強くなるう

月 日

一 (1)から(3)までの文の — 部の漢字の読みを、ひらがなでいいいに書きましょう。

(1)道路の 標識 を見る。

ひょうしき

(2)街灯 がつく。

がいとう

(3)勢いよく 走り出す。

いきお

二 (1)から(3)までの文の — 部のひらがなを、漢字でいいいに書きましょう。

(1)料理をのせた さら を運ぶ。

皿

(2)勝利を いわ う。

祝

(3)かぜを よぼう する。

予防

三 次の(1)と(2)の故事成語の使い方として最もふさわしいものを、①から③までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましよう。

(1)「五十歩百歩」

① 姉と私は、残りのケーキをどちらが食べるのかでもめていた。すると、母が私たちを注意して、もめごとに関係のない弟に食べさせた。弟にとっては、五十歩百歩だ。

② 私たちの学級では、学年で行われる学級対抗ドッジボール大会での優勝をめざして、ほかの学級よりもずっと前から練習を始めた。だから、優勝できたのは、五十歩百歩だ。

③ 山口さんと川島さんが、学校で出された宿題を五回忘れたのか、六回忘れたのかで言い争っていた。このようなことで言い争う二人は、五十歩百歩だ。

(2)「百聞は一見にしかず」

① 友達の野村さんは、先生の説明のはじめの部分を聞くと、結論まで見通すことができるという。百聞は一見にしかずということができる人だ。

② 私は、夕日が美しいことで有名な海岸を訪れ、その美しさを自分の目で見て実感することができた。まさに百聞は一見にしかずだ。

③ 私は、人からいろいろと細かく注意されることがいやだ。しかし、友達に百聞は一見にしかずだと助言されたので、そのことをよく考えてみようと思う。

②

③

ふだんの生活の中で、故事成語を意識して使ってみよう!

2 編集の特ちょうをとらえよう

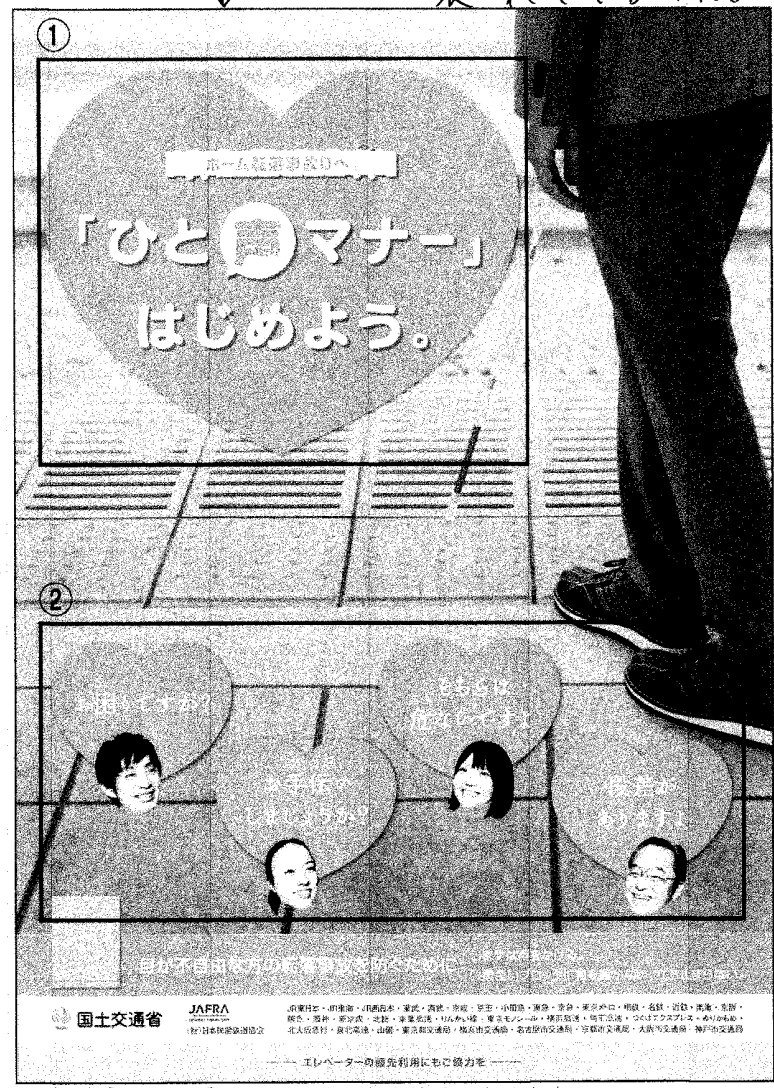
月

日

小島さんは、駅にはられていた、次の【広告】を見て、考えたことをノートにまとめました。【小島さんのノートの一部】の「ア・イ」の中に入る内容として最もふさわしいものを、あとの1から3までのなかからそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。

これは、国土交通省の「鉄道利用マナーUPキャンペーン」のポスターです。見る人に関心をもってもらったり、実際に行動してもらったりするための工夫が、言葉・字の大きさ・写真との組み合わせ等に表れていますね。

の広告やポスター、パンフレットなどを見るときには、「書かれている内容」に加え、「どう書かれているか」にも注目！



※【広告】の中の②には、ふりがなを付けてあります。

【小島さんのノートの一部】

この広告には、駅のホームで目が不自由な方に会ったときに、声をかけることをすすめるというねらいがある。

そのために、まず、①の部分では、広告の作り手がよびかけの表現を用いて大きな文字で示している。そのことは、広告を見る人に強い印象をあたえている。

次に、②の部分では、①をもとに、実際に

ことにより、広告を見る人が行動につなげやすくなっている。

（内容が続く）

- ア
- 1 広告を見る人に行動をうながそうとする
 - 2 目が不自由な方を勇気づけようとする
 - 3 疑問に思ったことを報告しようとする

1

- イ
- 1 声をかけるときの順序
 - 2 声をかけるときの注意点
 - 3 声をかけるときの具体例

3

②の「お困りですか?」「そろそろ危ないですよ」等は、例えばどんな声をかけるのが、という例になっていますね。

3 表現の工夫をとらえよう

月 日

5

次は、読書のことについて書かれた新聞の【コラム】（筆者自身の思いや考えなどを述べた短い記事）です。この【コラム】は、全体の内容が1から5までのまとまりに分かれています。これをよく読んで、あとの一と二の問いに答えましょう。

【コラム】

記事の中の▼は、まとまりを表す印です。

1 ▼四月二十三日
 は「子ども読書の日」。世界では「世界本の日」とも呼ばれている。本とその作者たちを敬うとともに、読書の楽しみを味わう日である。2 ▼子供のころ、宮沢賢治の『セロ弾きのゴーシュ』に夢中になった。楽団の中で、一番へたなセロ弾きであるゴーシュが、動物たちとの出会いを通して成長していく様子に心がおどった。3 ▼ある作家の言葉に、「読書というものは、その時その時によって読みの味わいがちがう」というものがある。子供時代に読んだ本を大人になって読み返すと、また別の楽しみが味わえるものだ。4 ▼先日、『セロ弾きのゴーシュ』を再び読んだ。当時は気付かなかった人物の見事な描写に、賢治のすばらしさを実感した。5 ▼世界の人々が本について考える日。子供はもちろん、かつて子供であった大人も童心に返って本を楽しむ。そんなひとときもよいものだ。

※1「描写」：かき表すこと。
 ※2「童心」：子供の心。

コラムは、筆者自身の思いや考えなどを述べているので、「私は」と書いてなくても、2・4とも筆者自身の体験であることがわかります。

一 筆者は、「子ども読書の日」について、自分の読書体験を交えながら書いています。その体験が書かれているまとまりを、【コラム】の中の1から5までの中から二つ選んで、その番号を書きましょう。

2	4
---	---

二 筆者は、自分の思いや考えを根拠付けるためにある言葉を引用しています。それは、どの言葉ですか。最も適切な言葉のはじめの五文字を書きぬきましょう。ただし、句点（。）や読点（、）、かぎ（「」「」）は字数にふくみません。

※解答は、解答用紙に書きましょう。

文中で かぎ（「」「」）が

使われていますが、それぞれどんな意味で使われているのか考えてみましょう。

読	書	と	い	う
---	---	---	---	---

4 「文」のつながりを考えよう

月 日

次の【文章の一部】は、六年生の高島さんが五年生のときから続けている放送委員の仕事について書いたものです。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

【文章の一部】

放送委員会の役員を決める話し合いをした。ぼくは、委員長を任されることになった。新しく委員になった五年生は、放送機器の使い方が分からなくて不安そうにしていたので、ぼくは、これまでの経験を生かして、いろいろなことを教えてあげたいと思った。

一 【文章の一部】の中には、いくつかの文があります。それぞれの文のはじめの五文字を丸（○）で囲みましょう。なお、読点（、）も字数にふくみます。右の【文章の一部】の中に丸（○）をつけ下さい。

ぼくは、委員だとして文字になっちゃうね。

二 【文章の一部】の中の——部を、主語に注目して二つの内容に分けて書き直します。つなぎ言葉には、「だから」を使います。

(1) 一つ目の文の終わりの七文字と、二つ目の文の「だから」に続く七文字を書きましょう。なお、読点（、）も字数にふくみます。

この条件を正確に守れたかな？

新しく委員になった五年生は、（中略）

そうにしていた。

だから、

ぼくは、これま

（中略） 教えてあげたいと思った。

(2) ——部を二つの内容に分けると、「だから」と同じような意味の別の言葉を使うとすると、どのような言葉がふさわしいですか。次の1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 しかし
- 2 また
- 3 ところで
- 4 それで

○「だから」は、前の文の内容が後の文の内容の理由や原因になっているときに使うね。同じ働きをするのはどれかを考えよう。

4

文や文章の構成を考えよう

月 日

黒木さんは、次の「きのうの出来事」についての文章を書いたあと、読み返して、適切な表現にしようとしています。あとの一と二の問いに答えましょう。

【きのうの出来事】

わたしは、きのうの夜、母に注意されたのに、おそくまでテレビを見たり、音楽を聞き
ました。そのため、夜にねむれなくなっていました。このようなことになったのは、
母の注意に耳をかたむけていたらよかったと反省しました。

一 ア ― 部は、「うたり」が一回しか使われていないので、適切な表現ではありません。
「うたり」は、複数の内容を並べるときに使う言葉です。ア ― 部を「うたり、…たり」
という表現を使って書き直しましょう。
(解答には、「う」と「…」の記号は必要ありません。)

テレビを見たり、音楽を聞いたりしました。

二 イ ― 部は、そのあとに続く「母の注意に耳をかたむけていたらよかったと反省しました。」
という内容に対して、適切な表現ではありません。イ ― 部を書き直すときに使うことが
できる言葉を、1から5までのの中から三つ選んで、その番号を書きましょう。
(解答の順序は、問いません。)

1 なるならば

2 なるし

3 なるのに

4 なるのだったら

5 なるのであれば

ここが大切!

1 4 5

もし、お母さんの注意に耳をかたむけていたら、ちゃんとねむれたのにね。

6 文章の組み立てを考えよう

月 日

水谷さんの学級では、学校生活をよりよくするために、身近な題材を取り上げて意見文を書くことになりました。そこで、校内でのけがをなくすことについて書いた二人の意見文を取り上げて、文章全体の組み立てについて学習しました。よく読んで、あとの問いに答えましょう

※段落のはじめにある数字は、その段落の番号を示しています。

中村さんの意見文

けがのない学校にしよう

中村かおり

- ① 新しい学年になって、校内のいろいろな場所でけがが起きている。なぜ、けがが起きるのかについて、くわしく調べてみることにした。
- ② 今年の三月に校内で起きたけがの集計結果を保健室の資料で調べてみると、けがの種類として、打ぼくやねんざが一番多かった。けがが起きる場所は、ろうかの曲がり角、教室からろうかに出る所、運動場の順で多くなっていた。けがの原因を調べると、先を急いでいるときやふざけているときに転んだり、ぶつかったりしている場合がほとんどであった。
- ③ 集団生活の場である学校では、おたがいが気をつけないければ、けがが起きてしまう。一人一人が落ち着いて行動し、ふざけすぎないことが大切だ。そのためには、校内放送やポスターなどで落ち着いた行動をよびかけたり、おたがいに注意し合ったりすればよいと思う。みんなで協力してけがのない学校にしていきたい。

山下さんの意見文

校内でのけがをなくすために

山下ひろし

- ① ぼくは、校内でのけがをなくすために、使った道具をいつも元のとおりにきちんとかたづけておくことが大切だと思う。
- ② 先週、そうじのあと、ろうかの曲がり角に置かれたままになっていたバケツにぶつかって転んでしまい、ひざに大きなあざをつくってしまった。使ったバケツがきちんとかたづけてあれば、けがをしなくてすんだと思う。友達の中には、体育の学習で使うハードルの高さを調節するねじがきちんと止められていなかったために、運ぶとき指をはさんでしまった人もいる。
- ③ みんなが生活する学校では、いろいろな道具がある。それらがあぶない状態のままになっていると、けがが起きてしまうことがある。使ったものはきちんと後始末をして、安全な状態にしておくことが大切である。そのためには、係や委員会の活動の一つとして、使った道具がきちんとかたづけられているかを点検するような取り組みを行うとよいと思う。みんなの学校を安全な場所にしていきたい。

〔問い〕次に示す二人の意見文の「文章全体の組み立て表」を完成させます。二人の意見文の組み立てとして、**ア** から **カ** までに入るふさわしいものをあとの1から4までのの中からそれぞれ選んで、その番号を書きましよう。番号は「一回以上使ってもかまいません」。

「文章全体の組み立て表」

中村さんの意見文の組み立て			山下さんの意見文の組み立て		
③	②	①	③	②	①
ウ	イ	ア	カ	オ	エ

- 1 調査した資料をもとにした事実
- 2 自分の意見や提案
- 3 考えたいことや調べようとする課題
- 4 体験をもとにした事実

中村さんは、
 ・まず何について調べるのかを書き、
 ・次に資料で調べた内容を書き、
 ・最後に自分の意見を書いて
 いるね。

山下さんは、
 ・まず自分の意見を書き、
 ・次に経験をもとにした出来事を書き、
 ・最後にもう一度自分の意見を書
 き書いています。

こういう書き方も
 あるんだね。

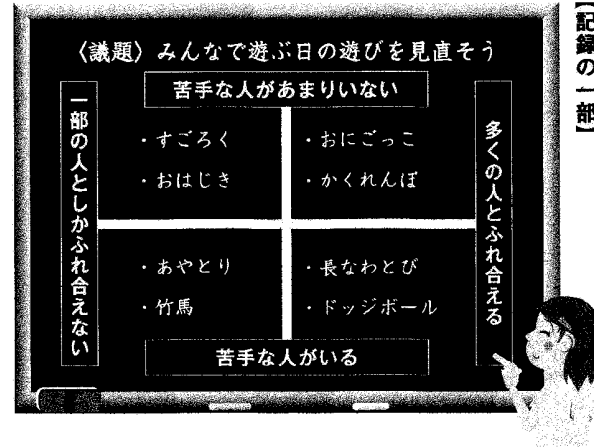
中村さんの 意見文の組み立て			山下さんの 意見文の組み立て		
ウ	イ	ア	カ	オ	エ
2	1	3	2	4	2

内容を関係付けて考えよう

月 日

岩村さんの学級では、みんなが参加でき、多くの人とふれ合えるように、「みんなで遊ぶ日の遊びを見直そう」という案が出されました。それを議題として話し合いをしています。次は、話し合いの内容を黒板にまとめた【記録の一部】です。まとも方の説明として最もふさわしいものを、1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

【記録の一部】



- 出された「遊び」を、場所やルールごとにそれぞれ整理している。
- 提案の理由に合わせた複数の観点を決め、それらに合わせて「遊び」を分類している。
- 出された「遊び」を、みんなが参加できると考えられる順番に上から並べている。
- 一つの「遊び」を取り上げ、そこからほかの「遊び」を連想して広げている。

○多くの人とふれ合えるか、ふれ合えないか
○苦手な人がいるか、あまりいないか
→ この観点で分類しているね

〈国語辞典の使い方チェック〉

次の【文章の一部】の——部の言葉の意味を、国語辞典を使って調べます。——部の「はかる」の意味は、あとの【国語辞典の一部】の1から4までの中のどれに当たりますか。一つ選んで、その番号を書きましよう。

【文章の一部】

小学生の運動習慣の調査によると、体育の授業以外では、運動をほとんどしない小学生が多いことが分かった。このことから、小学生が運動をする機会の増加をはかる必要があると考える。

～（内容が続く）～

【国語辞典の一部】

- は
- はかる【計る】（動）時間・温度などを調べる。例 タイムを計る。
 - はかる【測る】（動）長さ・高さ・広さなどを測定する。例 身長を測る。
 - はかる【量る】（動）重さ・分量などを調べる。例 体重を量る。
 - はかる【図る】（動）いろいろと考えて計画する。例 解決を図る。

4 文の中での意味を考えると身につけたいね。

2

8 文と図を関係付けて読もう

月 日

2

森山さんは、物事を決めることに関心をもち、次の「だれが選ぶ どれを選ぶ」という【文章】を読みました。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【文章】

の内容は、あとの問いと関係があります。

だれが選ぶ どれを選ぶ

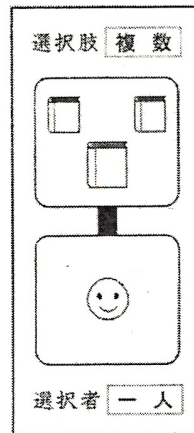
学校生活においては、学級の係や児童会の委員を決めるなど、みんなで物事を決めることがよくあります。物事を決めるということは、どういうことなのでしょう。

何かを決めるときには、「選択者」と「選択肢」があります。「選択者」とは、選ぶ人のことをいいます。また、選ばれるものや人のことを、「選択肢」といいます。

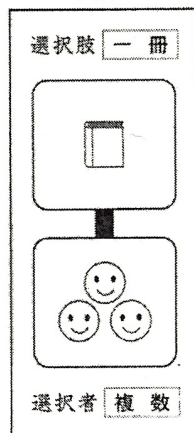
それでは、「選択者」と「選択肢」の関係を、具体的な場面で考えてみましょう。学校では、学校図書館にあるたくさん本のの中から、目的に応じて本を選ぶことがあります。この場合、「選択者」は学校のみなさん、「選択肢」は学校図書館にあるたくさん本の本です。

〈図1〉は、「選択者」が一人で、「選択肢」が複数の場合です。例えば、休み時間に一人で学校図書館に行って、一冊の本を借りることにしました。すると、「選択者」のあなたは、「選択肢」のたくさんの中から、好きな本を選ぶことができます。このような場面では、「選択者」はあなた一人なので、どの本を選ぶかとなやむことはありません。最後は、自分の判断で本を決めることができます。

〈図1〉



〈図2〉

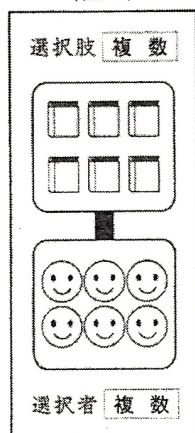


〈図2〉は、「選択者」が複数で、「選択肢」が一つの場合です。例えば、学校図書館のたくさん本の中から人気のある一冊の本に何人かの人が集中するような場面です。このような場面では、だれがその本を借りることにするか、折り合いをつけて決めていくことが大切です。たがいにゆずり合って解決することを、「折り合い」といいます。

最後に、〈図3〉について考えてみましょう。

〈図3〉は、「選択者」が複数で、「選択肢」も複数の場合です。例えば、学級全員で学校図書館に行き、感想文を書く本をそれぞれ一冊選ぶような場面です。このような場面では、「選択者」の一人が一冊ずつ本を借りることができず、選びたい本の希望が重なることもあります。

〈図3〉



〈図3〉は、〈図1〉と〈図2〉とはちがう場面のように見えますが、実は〈図1〉と〈図2〉の両方がふくまれているといえます。〈図3〉の場合、まず〈図1〉のように、「選択者」は自分の判断で自由に一冊の本を選ぼうとします。その中で、複数の人が同じ本を選んだ場合には、〈図2〉のようにだれが借りるのかを決めることになります。

これら三つの図をもとに考えると、物事を決めるときには、まずはそれぞれの人が自分で判断することが大切です。そして、それぞれの人の希望が重なったり、意見や判断のちがいが生じたりした場合には、たがいのことを考えながら折り合いをつけていくことが大切です。

一 森山さんは、「文章」の中の難しい言葉とその意味について、次の「ノート①」にまとめています。

【ノート①】

◇ 難しい言葉	◇ 言葉の意味
◇ 選択者	選ぶ人のこと
◇ 選択肢	ア
◇ イ	たがいにゆずり合って解決すること ↓ 四行目に注目 ↓ の中に注目

二 森山さんは、「文章」の要旨（文章で取り上げている内容の中心や、書き手の考えの中心となる事）を次の「ノート②」にまとめています。

【ノート②】

ア 選ばれるものや人のこと	イ 折り合い
物事を決めるときには、「選択者」と「選択肢」があります。このとき、「選択者」が一人で、「選択肢」が複数の場合や、「選択者」が複数で、「選択肢」が一つの場合などがあります。	
物事を決めるときに大切なことは、	
結論はどの段落に書かれて ウ いるでしょうか。段落には それぞれ役割がありますね。	

※◆の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

(例)

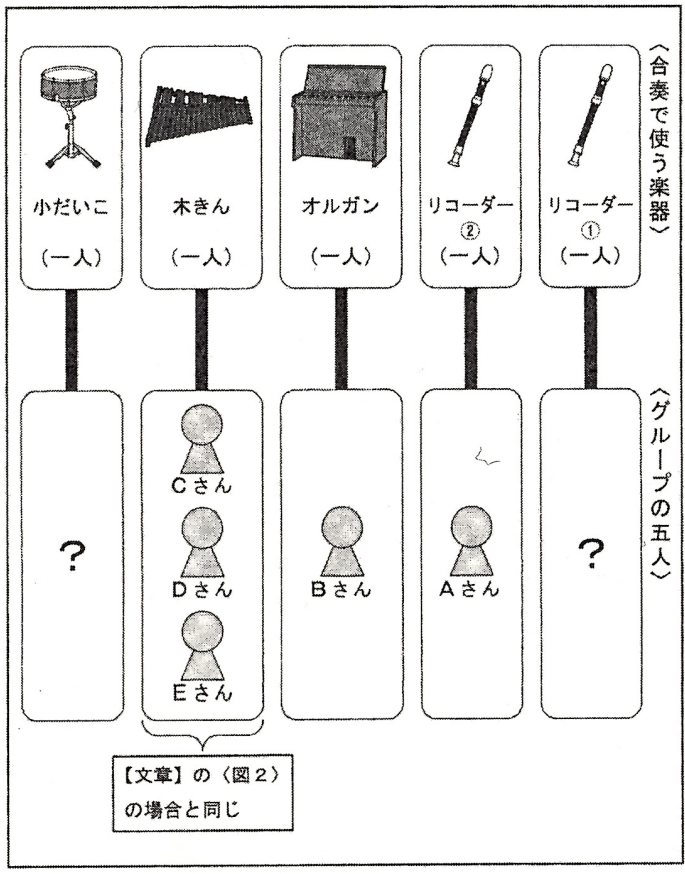
物事を決めるときに大切なことは、まず
自分で判断することです。そして、希望が重
なったり、意見や判断のちがいが生じたりし
た場合には、たがいのことを考えながら折り
合いをつけていくことです。

100字

60字

三 森山さんの学級では、音楽の学習でグループごとに合奏をすることになりました。そこで、森山さんのグループの五人は、それぞれの希望をもとに、担当する楽器を決めることにしました。次の【楽器の分担図】は、【文章】の内容を参考に五人の希望を整理したものです。あとの（問い）に答えましょう。

【楽器の分担図】



（問い）

森山さんのグループでは、「希望者が一人の場合には、その人がその楽器に決まる」ということを確認しています。グループの五人は、楽器の分担をどのように決めていくことになりますか。

＜条件＞

- 「リコーダー①」「小だいこ」「木きん」という三つの言葉を使って書くこと。
- 「木きん」の決め方については、【文章】の Cさん の中で説明している、決めるときに大切なことを取り上げて書くこと。
- 書き出しの言葉に続けて、八十字以上、百字以内で書くこと。なお、「しかし」から始まる書き出しの言葉は字数にふくむ。

※◆の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

（例）

い	ん	れ	し	し	A
を	当	た	か	さん	さん
つ	し	二	希	も	は
け	ま	人	望	希	望
決	す	は	ど	ど	お
め	。	。	お	り	の
い	三	リ	り	コ	リ
く	人	コ	コ	ー	コ
必	が	ー	ー	ダ	ー
要	な	①	い	さ	マ
が	得	か	ま	せ	ん
あ	る	。	。	。	。
り	よ	小	木	E	さん
ま	う	だ	き	ん	は
す	に	い	ん	か	ら
	折	こ	外	一	人
	り	を			
	合	た			

100字 80字

「文章」の「ます」
その後考えるのは、
「そして」から書か
れている内容ですね。

9 説明的な文章を読もう

月
日

原田さんと野口さんは、校外学習で動物園に行き、ゾウの鼻について下のような「疑問」をもちました。そこで二人は、それぞれの疑問を解決するために、次の「科学読み物」を読みました。

【科学読み物】の下の「原田さんのふせん」、「野口さんのふせん」は、分かったことや新たな疑問を書いたものです。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

※【科学読み物】の中の印についての説明

――部：分かったこと

――部：新たな疑問に関係する部分

「原田さんの疑問」

A

「野口さんの疑問」

ゾウの長い鼻は、
においを感じ取る
ことができるのか。

野口さん

原田さん

【科学読み物】

鼻にとくちようがある動物というと、みなさんはどのような動物を思いうかべますか。きつとゾウを思いうかべる人が多いことでしょう。ゾウといえば、長い鼻がとくちようの一つです。では、ゾウの鼻はどうして長いのでしょうか。

大昔のゾウの体は、今のゾウの体よりもずっと小さかったといわれています。鼻も今より短かったのですが、長い年月の間に体がだんだんと大型化し、口が地面からはなれていったようです。それとともに、鼻と上くちびるがいつしよに長くのびていったことで、頭を下げなくても草や水を口に運ぶことができるようになったと考えられています。

ゾウは、長い鼻を使っているいろいろなことができます。

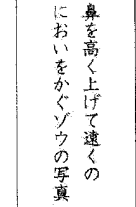
「原田さんのふせん」

- ※「ふせん」：分かったことや疑問などを書いて、本や文章に目印として付ける紙。
- ①鼻は、今よりも短かったが、体がだんだんと大型化し、口が地面からはなれていったようだ。
 - ②鼻と上くちびるがいつしよに長くのびていったことで、頭を下げなくても草や水を口に運ぶことができるようになったようだ。
 - ③長い鼻を使うことで、できること。
(食べ物をつかむ、水をすいあげて飲む、水浴び、あいさつ)
 - ④鼻の短い動物の鼻の役目は？
・カバやフタは、鼻を使って何ができるのか。

「野口さんのふせん」

- ①長いからといって、においを感じ取ることはできないわけではない。
- ②二、三千メートル先のおいをかき分けるといわれている。
- ③すぐれた鼻を使うことで、
- ④においを感じ取ることにすぐれた動物は、どのような動物か？
・イヌは、どれくらい先のおいを感じ取るのか。

ゾウの鼻は、ほかの動物たちと同じように、においを感じ取ることもできます。長いからといって、においを感じ取ることはできないわけではないのです。むしろ、においを感じ取ることは、むしろ、ひじょうにすぐれており、二、三千メートル先のおいをかき分けるともいわれています。



すぐれた鼻を使うことで、水場や食べ物をさがすこともできます。また、においのちがいで仲間を見つけることもできます。ゾウのほかにも、においを感じ取ることにすぐれた動物はたくさんいます。

～(内容が続く)～

一 「原田さんの疑問」の A の中には、どのような内容が入ると考えられますか。ふさわしい内容を、「原田さんのふせん」①から④までの内容をもとにして、十五字以上、四十字以内で書きましょう。

ゾウの鼻は、どうして長いのか、また、長い鼻を使うことで、どのようなことができるのか。

ここから原田さんの疑問を考えよう。

(例)

二 原田さんと野口さんは、書いたふせんを整理しながら【疑問】に対するまとめを書いていきます。
【野口さんのまとめ】の B の中には、どのような内容が入ると考えられますか。ふざわしい内容を、「原田さんのまとめ」の書き方を参考にし、次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- 【野口さんのふせん】③と④の両方の内容を使って書くこと。
- 【野口さんのふせん】⑤の内容については、「科学読み物」の 部の二文を一文にして書くこと。また、④の内容については、「例えば」という言葉を使って書くこと。
- 書き出しの言葉に続けて、百字以上、百二十字以内にとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

【原田さんの疑問】

A



【分かったこと】

①鼻は、今よりも短かったが、体がだんだんと大型化し、口が地面からはなれていったようだ。

②鼻とよくちびるがいっしょに長くのびていったことで、頭を下げなくても草や水を口に運ぶことができるようになったようだ。

③長い鼻を使うことで、できること。
(食べ物をつかむ、水をすいあげて飲む、水浴び、あいさつ)

【新たな疑問】

④鼻の短い動物の鼻の役目は？
・カバやブタは、鼻を使って何ができるのか。

【原田さんのまとめ】

ぼくが、疑問に思った「A」ということについて、次のことが分かった。
大昔のゾウの鼻は、今のゾウの鼻よりも短かったが、体が大型化し、口が地面からはなれていったようだ。そして、鼻とよくちびるがいっしょに長くのびていったことで、頭を下げなくても草や水を口に運ぶことができるようになったようである。
長い鼻を使うことで、食べ物をつかんだり、水をすいあげて飲んだりすることができる。また、水浴びや、あいさつをすることもできる。調べていくうちに新たな疑問も出た。鼻の短い動物の鼻の役目は何かということだ。例えば、カバやブタは、鼻を使って何ができるのか調べたい。

【野口さんの疑問】

ゾウの長い鼻は、においを感じ取ることができるのか。



【分かったこと】

①長いからといって、においを感じ取ることはできないわけではない。

②三キロメートル先においをかぎ分けるといわれている。

③すぐれた鼻を使うことで、

【新たな疑問】

④においを感じ取ることにすぐれた動物はどのような動物か？
・イヌは、どれくらい先のにおいを感じ取るのか。

【野口さんのまとめ】

わたしが、疑問に思った「ゾウの長い鼻は、においを感じ取ることができるのか」ということについて、次のことが分かった。
ゾウの鼻は、長いからといって、においを感じ取ることができないわけではない。二、三キロメートル先のにおいをかぎ分けるといわれている。すぐれた鼻を使うことで、

B

71

もできる。と一文に。
ので、イヌかにおいを
感じる距離を「例え」で。

120字 100字

前田さんの学級では新美南吉が書いた「ごんぎつね」を読んだあと、その物語、あるいはそれに関連する本や文章を取り上げてすいせん文を書くことにしました。次は、「花田さんが書いたすいせん文」と「本間さんが書いたすいせん文」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

「花田さんが書いたすいせん文」

みなさんは、物語をくり返し読んだ経験がありますか。そのような読み方をしたことがない人に、新美南吉が書いた「ごんぎつね」をおすすめします。

この物語の最後の部分は、次のように書かれています。「兵十は、火なわ銃をばたりと、とり落としました。青いけむりが、まだ筒口からほそく出ていました。」わたしは、この部分が気になり、物語の全体をくり返し読み、登場人物の心の変化をたどってみたいとなりました。

「ごんぎつね」には、ごんと兵十が登場します。ごんが、兵十のうなぎを取ってしまうといういたずらが事件の起りです。ごんは、そのことを深く反省し、おわびにくりや松たけを兵十のうちに持っていくようになります。しかし兵十は、ごんがしたことだとは気づかず、最後に火なわ銃でごんをうってしまいます。兵十は、そこで初めてごんの行動に気づくのです。ごんと兵十の心のすれちがいにせつない気持ちになります。

わたしは、この物語がどのように続くのか想像しながら、最後の部分を何度も読み返しました。そのことで、青いけむりにこめられた意味を少し理解できたような気がします。物語の最後の部分に深い味わいがあるこの物語を、みなさんにもぜひ読んでほしいと思います。

「本間さんが書いたすいせん文」

わたしは、「ごんぎつね」を読んで、作者の新美南吉に興味をもちました。そこで、図書館に出かけ、新美南吉の作品を集めた本をさがして読みました。その中で、主人公のものの見方や考え方に注目して読んだところ、「手ぶくろを買いに」と「おじいさんのランプ」が特に心に残りました。

「手ぶくろを買いに」は、「ごんぎつね」と同じようにぎつねが主人公の物語です。母さんぎつねは、子ぎつねに人間はこわいものだとかえます。しかし子ぎつねは、町へ手ぶくろを買いに行ったとき、人間のやさしさや温かさにふれます。美しいものや人間のやさしさをすなおに感じる子ぎつねのすがたに心が温まります。

もう一つは、「おじいさんのランプ」です。この作品の主人公のおじいさんは、わかいころにランプ売りとして成功しますが、時代の流れの中で電氣が使われるようになり、ランプ売りをやめる決意をします。そのいさぎよいすがたがむねをうちます。

わたしは、同じ作者の作品を読むことで、お気に入りの作品に出会うことができました。みなさんは、物語の作者に注目して本や文章を読んだことがありますか。そのような経験がない人には、まずは、読んだ本の中から好きな物語を選び、その物語の作者の作品を集めた本をさがして読むことをすすめます。きっと作者自身のことについて知識を増やしたり、作品にこめられた意味を深く考えたりすることができるようになります。

一 前田さんは、二人のすいせん文を比べて読み、分かったことをノートにまとめました。【ノート】の
 ア・イ・ウ の中に入るふさわしい内容を、本文中の言葉を使って書きましよう。

【ノート】

ア	イ	ウ
どのような本や文章をすすめているか	どのような人にすすめているか	すすめる理由
○「ごんぎつね」	○物語をくり返し読んだ経験がない人	○花田さんの読書経験から ○物語の最後の部分が気になり、物語の全体をくり返し読み、登場人物の心の変化をたどってみたくなったから。
○作者の作品を集めた本 ・「手ぶくろを買いに」 ・「おじいさんのランプ」	○	○作品の特ちょうの面から ○物語の最後の部分に深い味わいがあるから。
	ア	イ
		ウ
	○ （読むことを通した効果の面から） ○作者自身のことについて知識を増やしたり、作品にこめられた意味を深く考えたりすることができるから。	○ （本間さんの読書経験から）

ア	イ	ウ
○例 物語の作者に注目して本や文章を読んだ経験がない人	○例 この物語がどのように続くのか想像しながら、最後の部分を何度も読み返したことで、青いけむりにこめられた意味を少し理解できたような気がするから。	○例 同じ作者の作品を読むことで、お気に入りの作品に出会うことができたから。

二 前田さんは、二人のすいせん文を比べて読み、二人の読み方にはちがいがあることに気づきました。二人は、どのような読み方をしていますか。その説明として最もふさわしいものを、次の1から5までのの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 同じ題材で、複数の作者が書いた作品を取り上げ、作者の考えを比べながら読んでいる。
- 2 一つの作品を取り上げ、自分の考えと作者の考えのちがいを明らかにしながら読んでいる。
- 3 同じ作者の複数の作品を取り上げ、登場する主人公に注目しながら読んでいる。
- 4 同じ主人公が登場する作品を取り上げ、そのおもしろさをまとめながら読んでいる。
- 5 一つの作品を取り上げ、注目した物語の最後の部分や全体を何度もくり返し読んでいる。

花田さんが書いたすいせん文

5

本間さんが書いたすいせん文

3

「花田さんが書いたすいせん文」の最後の段落に注目しよう。
 これも正解。この物語がどのように続くのか想像しながら、最後の部分を何度も読み返すことができたから。
 青いけむりにこめられた意味を少し理解できたような気がするから。